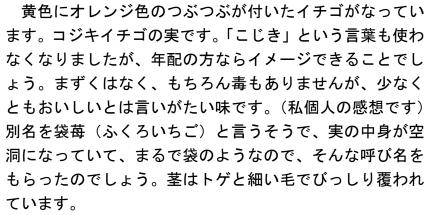
風土記の丘の花だより238

今、そしてこれから見られる植物 (2024年6月2日)

新緑が雨に洗われて、更に美しさと輝きを増したように感じます。早いものでもう6月になりました。これから雨の季節になります。私たちにとっては歩きにくく、ちょっとうっとうしい季節になりますが、山の草木は喜んでいることでしょう。







こちらはおいしいクサイチゴです。クサは臭いのではなく、草のことです。分類上、草ではなく木ですが、生えているようすはまるで草です。このイチゴは生でもおいしいですが、ジャムにするとなかなか絶品です。(ただし、これも私個人の感想です)食べられるイチゴで言うと、冬に実るその名もフユイチゴもおいしいですよ。でも、食べるときは、植物に詳しい人にキチンと教えてもらってからにしてくださいね。何でもかんでも食べることはお勧めしません。



夏の野を代表する花の一つオカトラノオが咲き始めました。トラノオというのは、もちろん「虎の尾」のことで、葉や花序(小さな花の集まり)が細長いものによく用いられる名前です。たとえばトラノオシダやカクトラノオなどがそうです。オカトラノオの花序の独特の曲がり具合というか、うねり具合はなんとも芸術的ですね。一度見たら忘れられない造形美です。サクラソウ科の植物で、万葉植物園でよく見られます。でもこれは万葉集に歌われたいわゆる万葉植物ではありません。



キササゲの花です。まずおことわりしますが、この写真は 去年のものです。これを書いている5月29日現在、まだ余 り花が咲いていないので、この写真を使いました。竪穴住居 の東側、道をはさんで山側に生えている背の高い木です。で すから見上げていただかないと見えません。キササゲはノ ウゼンカズラ科の木ですが、アズキに似た豆のササゲのよ うな細長い実ができるので、木ささげ という名前が付け られています。